

## 『ふろむ・マラウイ』～番外編6 身近な動物～

25th /Mar/2018 第43号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ: チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

TV番組等でマラウイが紹介される機会も増えてきましたが、東アフリカといえばゾウやキリンといった動物園で人気の動物やサバンナのライオンなどを思い起こす方が多いのではないのでしょうか? マラウイで生活した経験をお話すると、「ゾウは(家の)近くにいるの?」とか聞かれることがあります。大型の草食・肉食動物は、いわゆる「サファリ」に出かけないと見ることは出来ません(南アフリカ、タンザニア、ケニア等の周辺国のサファリは本当におもしろいです! マラウイに関しては、ふろむ・マラウイのバックナンバーをご覧ください)。アフリカを代表する動物は、国立公園まで行かないと見ることは出来ないで、日本にいるよりもサファリに行くためのアクセスや費用の面で多少有利なだけで、身近なものとは言い難いと思います。

デッサ県の山間部では、バブーン(キイロヒヒ)を見かける時がありますし、夜中にはハイエナの鳴き声が聞こえることもあります。日本のものとは違う生きものを目にすることがあっても昆虫や小動物がせいぜいです。



**写真上段左** :村で捕らえられたバブーン(村人曰くもう少し小さい時から飼っていたそうです)

**写真上段中央**:ホロホロ鳥(家畜用もの。このあと食べました。野生は顔の青色が鮮やか)

**写真上段右** :住んでいた家に入り込んだヘビ! 猛毒のヘビです。

**写真下段左** :フィールド調査中に見たトンボ(サナエトンボ科と思われる)

**写真下段中央**:フィールド調査中に捕まえたカメレオン(写真を撮影した後、森へ返しました)

**写真下段右** :サワガニの仲間(マラウイではカニは食べることはあまりないそうです)

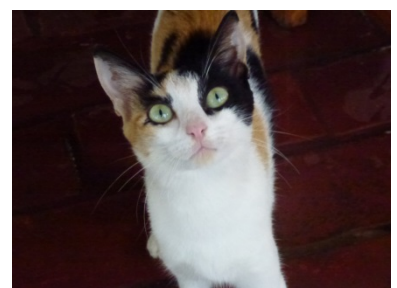
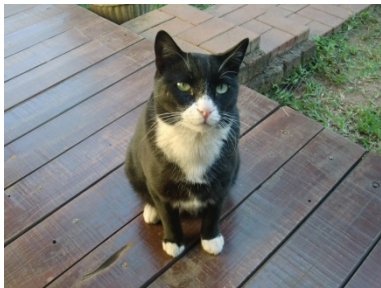
結果的に、マラウイでの生活で身近な動物といえば、ウシ、ヤギ等の家畜とイヌ、ネコとなります。ここでは、マラウイのイヌ・ネコ事情をご紹介します。

ネコは、ネズミ駆除の役割なのか、レストランやホテルで見かけることがほとんどです。レストランでは、客の食べ残しや食べている最中におねだりにやってきます。中には普通の家でも飼っていることがありますが、一步敷地の外に出ると野良犬などに襲われることも多く、生き残ることが難しいです。したがって、犬が入ってこない建物周辺で生活しているので、道を歩いてもネコはあまりみかけません。

逆にイヌは、どこでも目にすることができます。都市部では野良イヌがウロウロしていますし、村でもイヌはたくさんいます。村では、どれが野良か飼っているのか全く判

別できませんが・・・。イヌの主な仕事は、番犬です。特に夜は、不審者や動物が家の敷地に近づくだけで、ものすごく吠えるので異変を知らせてくれます。飼い主にとっては心強いパートナーとなるのですが、近所の人間からするとこれまた厄介なこともあります。時折、追いかけられ、咬まれることもありますので、通り道にイヌがいると緊張します。危険を避けて、できるだけイヌがいるところを避けて歩くことが多いです。

夜は野良イヌも活動的になり、群れをなして人間、車に見境なく襲いかかってきます。比較的安全なマラウイでも夜間移動する必要になった場合は、車を利用しますが（原則として近距離でも、徒歩の移動はしません）、理由は犯罪に巻き込まれるリスクはもちろんですが、イヌに咬まれて手ひどい怪我を負うリスクもものすごく高いのです。また、狂犬病の予防接種が徹底されてないので、狂犬病の恐れがあります。ネコも同様です。イヌもネコもかわいいし、人の生活圏にいれば大丈夫かな、おとなしいかな？と、つい考えがちですが、それば間違いです。触ろうとして、パクッと咬まれてしまった場合は、すぐに病院で狂犬病のワクチン接種が必要になります。狂犬病は、死に繋がるものなので、頭をなでたいのをこらえて写真を撮るだけにしています。



アフリカのネコ



村のイヌ(飼い犬かと思われます)



### ドックバス

家畜関係の地方政府事務所にドックバスが設けられており、週に1回程度開放されています。消毒薬が入っており、皮膚病やミ・ダニの予防を図っています。(1回30円くらいで利用可能)

